

NPO 法人日本都市計画家協会 北海道支部

2007 年度総会記念講演会

日 時 2007 年 5 月 25 日 (金)
16 時 00 分 ~ 18 時 00 分
会 場 室蘭プリンスホテル
4 階 金枝の間

《次第》

- 1 . 開会 (北海道支部長 : 小林 英嗣)
- 2 . 記念講演
「生涯学習まちづくりは村格・都市格へ」 (前掛川市長 榛村 純一氏)
- 3 . 質疑応答
- 4 . 閉会 (北海道副支部長 : 田村 亨)

「生涯学習まちづくりは村格・都市格へ」

NPO 法人日本都市計画家協会北海道支部では、毎年支部総会に合わせてまちづくりキャラバンの一環として支部総会記念講演会を行っております。

今年度は、2005 年度の帯広市、2006 年度の釧路市についで、昨年持続可能なまちづくりをテーマに都市再生モデル調査が行われた室蘭市を会場に、前掛川市長の榛村純一氏を講師に迎え記念講演会を行います。

日 時： 5月25日(金) 16時00分～18時00分
会 場： 室蘭プリンスホテル 4階 金枝の間(室蘭市中央町1-4-9)
プログラム： 講演・「生涯学習まちづくりは村格・都市格へ」榛村純一氏(前掛川市長)
参 加 費： 1,000円(学生・500円)

- 講師プロフィール -



昭和 9年 7月12日(1934年) 掛川市生まれ
昭和36年 9月 家業の林業・製材業経営従事(現在)
昭和38年10月 掛川市森林組合長(現在14期)
昭和52年 9月～平成17年3月 掛川市長(7期)
平成 5年 3月(1993年) 静岡県森林組合連合会会長(現)
平成11年 7月～平成17年3月 全国地域づくり推進協議会会長
平成11年11月～平成17年3月 全国生涯学習市町村協議会会長
この間、土地政策審議会特別委員(国土庁) 経済審議会臨時委員(経企庁)
生涯学習審議会委員(文部省) 国土審議会委員(国土交通省)
パイロット自治体会議代表、全国構造改革特区推進会議代表などを歴任

- 編著書 -

生涯学習まちづくりは村格・都市格へ 清文社 平19
森林と報徳と温暖化と 清文社 平19

他多数

講演会終了後には懇親会場も用意しております。こちらも是非ご参加ください。

～ 懇親会 ～

日時： 5月25日(金) 18時00分～20時00分
会場： 室蘭プリンスホテル 4階 銀枝の間(室蘭市中央町1-4-9)
会費： 4,000円

なお、記念講演会に先立ち NPO 法人日本都市計画家協会北海道支部 2007 年度総会および平成 18 年度室蘭都市再生モデル調査報告会を行います。一般公開にて行いますのでどうぞご参加ください(参加費無料)。

「北海道支部 2007 年度総会および平成 18 年度室蘭都市再生モデル調査報告会」

日時： 5月25日(金) 15時00分～15時50分
会場： 室蘭プリンスホテル 4階 金枝の間(室蘭市中央町1-4-9)

NPO 法人日本都市計画家協会 北海道支部について

NPO 法人日本都市計画家協会は、まちづくり活動をしている市民から都市計画の専門家まで、様々な人が集まる全国約 620 人の会員に支えられたまちづくりの団体です。1994 年から任意団体として活動し、2001 年に NPO 法人となりました。北海道では、1999 年 8 月に、道内を中心に活動する会員によって全国最初の支部を設立し、地域の実情を踏まえた独自の活動を開始しました。北海道支部は、大学、公益法人や、シンクタンク、コンサルタント等の民間企業において、具体的な都市・地域の問題に取り組み、積極的な活動を行っている多様な分野の専門家が、個人の立場で集まって形成されており、今後も、広い意味での都市計画家を含め、趣旨に賛同する有志をメンバーとして加えていく予定です。

支部総会(室蘭都市再生モデル調査報告会併催)・講演会・懇親会のお申込は
5月18日までに下記までご連絡ください。

NPO 法人日本都市計画家協会北海道支部 事務局
TEL : 011-232-9311 FAX : 011-232-4918 e-mail : jimukyoku@jsurp-h.gr.jp

「生涯学習まちづくりは村格・都市格へ」

村格・都市格の指標と評価法と形成手法

- 1 **歴史、史蹟・名勝**、由緒・縁起、文化財、古戦場、名所、伝統行事、お祭
- 2 **自然、森林**、街路樹・森林の豊かさ、その計画と教育プログラムの立派なまち
- 3 **食と農の文化**、三しか文化の豊かさ、名産と幸せと**食育**を大事にするまち
- 4 **清潔**・安心・安全・安定性の高い**健康長寿**のプログラムを様々もっているまち
- 5 **土地利用や環境**の条例を持ち、公園や道路や河川や住宅の**佇まい**のいいまち
- 6 **できた人**と一角・一芸の人、徳のある人が大勢いてマイナス情報の少ないまち
- 7 **女性が美しく**活躍し、家庭教育も子育て環境も男女共同参画も大変いいまち
- 8 都市の**主体性が多様に**育ち、市民・住民参加と**情報公開**がよくできているまち
- 9 自治体の**行財政力**が優れ、市役所（市長）のシンクタンク機能の豊かなまち
- 10 **極めつきの特記事項**、日本一・世界一の名物、景観、郷土愛のタネの多いまち

日本人は戦後60年、敗戦の反動から、思想、道徳、教育理念、家訓、親孝行などを語るのをやめ、早く、安く、便利、効率を求めて商売やまちづくりを進め、経済とお金を目的化した。そしてポピュリズムや母親民主主義と国債・起債による公共投資やバラマキ福祉が進展し、800兆円余の借金大国となり、頼みの地方分権も市町村合併も理念がぐらつき中途半端になってしまった。

2006年には、日本はマネーゲーム、いじめ、自殺、親子殺し、隠蔽、談合、汚職、偽装、点検不良等の謝罪記者会見のラッシュとなった。明らかに社会の絆・制度の衰弱、疲労、モラルハザード、平和・御馳走ばけの結果と言えよう。

今こそ中小都市が独自の生活哲学とその魅力を磨き、上記指標の村格・都市格を評価し、再生・形成していかなければならない。

誇りのもてる都市をめざす中小都市がスローライフや万緑化や報徳で都市格を樹立し、健康長寿と循環型社会を築いていけば日本は美しい国となろう。総花的でなく、二、三の分野で極めつきの特記事項の格をもち、縦割り社会の最適最大化路線ではなく、全体最適化を配慮した上での都市間競争を展開する必要がある。

地域主義・分権自立とスローライフの村格・都市格

- 1 価値軸の変遷 — 1960年・所得倍増・経済軸、1970年・万国博、1973年・石油衝撃で環境軸
 - (1) 公共投資軸、地方の時代、福祉軸、分権軸（地総債・特区、合併）、村格・都市格軸へ
 - (2) 売上げや利益を伸ばす競争から損害(事故)をしない競争へ、CSR(社会貢献)の競争へ
 - (3) 地域格差・産業格差 = 年金・保険と消費税、直接支払・交付税・ふるさと納税、NPO 寄付損金化
- 2 農家・商家を支えてきたおふくろさん・おっかさんの去就、地方都市・町村に女性は住むか女子は半天を支える(毛沢東) - 妖の力(卵巣)は無限、産む性のメスは本質、オスは現象
 - (1) 女性は 娘、妻、母、嫁、姑、お婆さん、職業婦人と妖怪七変化する
 - (2) 学歴が高い女性ほど東京が好きという4理由を考え、その生活・職業条件を整えること女性の地位よい、選択肢と機会多い、プライバシー保護、前衛が生きれる・味わえる
- 3 21世紀の政策形成と地域の指導力 - 健康・医療・福祉・介護、教育・文化・スポーツ 環境・資源、経済・産業・観光、建設・防災、広域・国際、計画・権力の7K政策
 - (1) 市長と職員が鍵 — 郷土愛とやる気で2倍、縦割りなしで2倍、命令明示で2倍、計8倍
 - (2) 生涯学習の究極の目的は一世紀一週間人生の実現 - 8つのスローライフ実践によって
スローライフとは80歳・70万時間のうち勤務労働7万時間を除く63万時間のスロー主義
スローペース、歩行文化 = 交通事故、廃棄物とCO2、糖尿病、エゴ助長、地域否定
衣食住 = スローウエア(和服)、スローフード(和食・茶)、スローハウス(100年住宅)
加齢 = スローエイジング、健康長寿 産業 = スローインダストリー、循環型農林業
教育 = スローエデュケーション生涯学習 旅行 = スローツーリズム(人生の旅、交流時代)
- 4 中国と報徳と北海道 - 経済急成長と条件不利地域、所得・地域格差、二宮金次郎を評価
明治維新(1868)から日露戦争(1904)まで日本人は文明開化の掛声で下記3つを急速吸収した
西欧科学技術文明、学問のススめ、資本主義システム、富国、軍国主義・帝国主義、強兵
その背景は農民の識字率と二宮尊徳 - トヨタ・松下電器の創業者、豊田佐吉、松下幸之助
国際二宮尊徳思想学会 - 辺境文化に花開いた究極の東洋思想、神儒仏正味一粒丸、分度推譲
道徳門と経済門 — 経済のない道徳は寝言である、しかし道徳のない経済は犯罪となる
- 5 **結語** 縦割り中央集権で経済とお金を目的化した社会に抗し、人生・家庭・地域の目的を考える
ローマクラブの警告 — 人口・食料・資源・環境の限界と少子高齢化・人口減少で、全体最適化を
日本列島は都会と農山村に二極化、20万以上の都市135に6480万(51%)、町村に1376万(10.8%)
農林業・過疎地への支援理論 — 公益機能、教育・文化・ふるさと、危機管理・安心
消費税アップ分の配分方法(国と県と市町村)と財源委譲、年金保険等再配分所得率のあり方